

令和5年9月発行

『幼保小連携・接続の大切さ』の研修へのご参加、ありがとうございました！

8月3日（管理職の先生方を対象に）と8月24日（一般の職員の先生方を対象に）、小学校の先生方と幼児教育・保育施設の先生方の合同研修会を開催しました。

小学校のスタートは「はじめの一步」ではなく「つづきの一步」。立場を越えて互いの子どもの姿などについて語り合ったり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにして演習したりなど、パワーと愛情の溢れる研修会となりました。

※下記はいただいた感想の一部です。

【小学校の先生方より】

- * こうして対面で話すことが連携・接続の第一歩だと思った。
- * これまで、要配慮児童の引き継ぎ、小学校準備としての交流が幼保との連携の中心だった。一步踏み込んだ話ができてよかった。
- * 「共通のまなざし」を手に入れて、子どもたちのために取り組もうと思った。
- * 「10の姿」を核として、子どもたちの成長へどのように関わっていけばよいかを再考することができた。幼保の先生方と様々な意見交換ができて有意義だった。心が動く授業をしたい。

【幼児教育・保育施設の先生方より】

- * 小学校はずっと敷居が高いと思っていたが、このように話すことで近くなることを実感した。
- * 普段、小学校の先生とじっくり話し合う機会がないので、意見をうかがうことはでき、とても実りある時間となった。今後も続けてほしい。
- * 子どもたちを保育・教育する教職員が現状を捉え、相互に理解することが大切だと思った。
- * 幼児期の子どもたちにとって「遊び」がどれだけ重要であるかがわかった。「10の姿」を目標としてではなく、遊びの先で子どもの中に育つように関わっていきたい。

『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』(以下「10の姿」)は 到達目標ではなく「振り返るためのポイント」です。

活水女子大学の福井謙一郎先生は講義の中で、幼児期の学びを発達の側面から「10の姿」の捉えとともにお話していただきました。

福井先生がお話されたことはまさに『幼児期にふさわしい教育』。幼児期は安定した情緒の中で、自己を発揮しながら主体的な遊びを通して「学び」を獲得することが重要です。例えば「10の姿」の項目のひとつに「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」がありますが、個別に取り出し小学校の先取りをして、園で一斉にドリルを経験させるなどということではありません。遊びの中で様々な直接体験を通して、感覚として身につけていくことが大切です。子どもたちが自由に遊ぶ積み木遊びやままごと遊びの中に、砂場遊びの中に、鬼ごっこの中に、他愛のないおしゃべりの中に・・・大人にとって、名前のない何気ないように見える遊びや生活の中にも、子どもの心が揺れ動く「学び」につながる要素は散りばめられています。子どもの興味・関心をベースとしながら、小学校以降の「自覚的な学び」にどうつながるかを見据えて、遊びの環境や援助を考えていきたいものですね。「10の姿」を手掛かりとして、子どもの姿を読み取り、自分の関わりを振り返ってみませんか？

※演習で使用した事例のひとつを添付しています。「10の姿」を捉えるひとつのきっかけとして活用してみたいかがでしょうか。



園内研修で一緒に学ばせていただきました(8月29日)

4月に、星美幼稚園さんより「子どもの特性に応じた具体的な配慮のあり方を学ぶ」をテーマとした園内研修充実に向けてのコーディネートのご依頼があり、実施の運びとなりました。

今年度より巡回相談に同行していただいている、言語聴覚士で教育委員会でも発達支援アドバイザーとしてご活躍中の田中智香子先生が、星美幼稚園さんからいただいた事前資料をもとに、『ひとりひとりの子どもの育ちにふれる』と題しお話ししてくださいました。自分自身の子ども時代を語り合う中で、誰もが持っている「傾向」や「特徴」に気付いたり、「子ども自身がどう困っているか」を考えたりなど、子どもの行動の「見えない部分を読み解くヒント」を感覚の育ちを中心にご教授いただきました。個々の特性を知り理解しようと努力すること、集団活動をする中でも、職員同士で連携して個別に合わせて対応を工夫することを学びました。

【先生方の感想】

- * 子どもの思いに気付くことが大切。考えるきっかけになった。
- * 「困り感」は職員と同じく子どもも感じている。
- * 見えない部分を見られるようになりたい。
- * 揺れたり回ったりなど、感覚に訴えかける遊びや運動の大切さを知った。
- * 「～ねばならない」ことを改めることの大切さを知った。



今後、具体的にどのように実践できるのかをまた勉強しながら、月ごとにまとめていきたいとのこと。園長先生はじめ、真摯に子どもたちと向き合っておられる先生方の熱意が、ひしひしと伝わってきました。ありがとうございました！！



園内研修実施に向けて
お手伝いします。

- ☆環境を通した遊びを中心とした教育・保育について
 - ☆子どもとの関わり方や言葉かけについて
 - ☆環境の工夫について
 - ☆指導計画について
 - ☆保育記録の書き方・活用について
 - ☆保護者対応について
- など

※園全体に限らず、隙間時間を利用した少人数の学び合いのための訪問等もお受けします。
まずはお電話でご相談ください。(幼児教育・保育支援センター いっほ:46-5881)



いっほ♡いっほ



～ポジティブ応援団～

「ネガ」から「ポジ」へ

「ネガポ辞典」という本をご存知ですか？ネガティブな言葉をポジティブに変換してくれる、読むだけで明るくなれる本です。ちょっと古いですが、今から10年ほど前に、北海道の高校生らが発案して書籍化され、11万部を超えるベストセラーになりました。

例えば・・・キレやすい→素直（自分のしたいことを素直にできる）

流されやすい→人の意見を尊重できる（人の意見に納得し共感することができる）

老けている→先駆者（周囲の面々よりも一歩先を歩いている） などなど・・・

時々、この本を読み返してはクスッと笑い、自分自身の「ネガ」な気持ちを「ポジ」に変換しています。

子どもと関わる時にも、この変換はなかなか役に立ちます。片付けが苦手な子を例に例えると、片付けないことに目が行きがちですが、①片付ける場所を見た ②片付けるものを手に取った ③ひとつだけ先生と一緒に片付けた・・・など完全ではなくても「ポジ」に変換して、その状況を言葉で認め嬉しい気持ちを伝えられたらいいですね。そして、子どもだけではなく、「ポジ」に変換できた自分も、褒めてあげてください。ネガポ辞典マインドで、人と関わっていききたいものです。